

FREE

ご自由に お持ちください。

No.854
2024 November

11

岐阜県の森林・林業

もり 森林のたより



News of the forest



フォレストワーカー研修
— 3年間で基礎技術を習得します —



編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会

E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp

<http://www.g-forestry.or.jp> (公社) 岐阜県山林協会の情報をご覧ください。

開催日	行事名等	内 容 等	場 所
			申込(問合せ)先/TEL
11月9日(土)~ 11月10日(日)	オープンキャンパス in翔楓祭 (森林文化アカデミー 学園祭)	●岐阜県立森林文化アカデミーは、林業、森林環境教育、木造建築、木工の分野で活躍できる人材を育成している専修学校です。入学を検討されている方を対象に、オープンキャンパスを開催します。 ●日時/11月9日(土) 9:30~16:00 10日(日) 9:00~16:00 ●内容/学校紹介、教員との面談、入試過去問の配布等 ●参加費/無料	森林文化アカデミー (美濃市曾代88) 森林文化アカデミー TEL 0575-35-2525 FAX 0575-35-2529 E-mail info@forest.ac.jp URL https://www.forest.ac.jp
12月6日(金)	狩猟免許試験 (第一種銃猟、第二種銃猟)	狩猟免許取得のための試験を実施します。 ●時間: 9:30~17:00 ●申込: 11/8~11/22 ※事前に申請書類等の提出が必要です。 詳しくは右記にお問い合わせください。	恵那総合庁舎大会議室 各地域を所管する県事務所等、または 環境生活政策課 TEL:058-272-8231



イベントカレンダー(一般向け).....	2
シリーズ「ぎふ木育全県展開(1)」.....	3
「G」クレジット制度の運用から1年が経過しました.....	4
森のジョブステーションぎふアンバサダー(広報大使を任命).....	6
令和6年度林政部優良工事施工者表彰式を開催.....	6
保安林制度の概要.....	7
盛土規制法の概要.....	7
山の歳時記(231) 木馬(きんま) I.....	8
地域の人 清水しいたけ園の清水さん.....	9
ぎふ木遊館通信.....	10
morinos 出前体験!!.....	11
シリーズ「森林・環境税」で緑豊かな清流の国ぎふづくり(7).....	12
森林と人を活かす知恵(142) 豊かな自然とは?.....	13
ぎふの木「使います!」(11).....	14
木の香るぎふの施設(139).....	14
下呂市複合型子ども子育て支援拠点施設「ニコリエ」.....	15
国有林の現場から(97).....	15
御嶽山飛騨頂上に火山防災シェルター設置.....	16
研究コーナー.....	17
国産黒トリユフ(アジアクロセイヨウシヨウロ)を人工的に発生させるために.....	17
普及コーナー 中濃地域の再造林、その後について.....	18
森林技術開発・支援センター きのこと通信(6).....	19
林業者向けお知らせ.....	20
市況.....	21
末梢.....	22

FREE

岐阜県森林・林業

No.854

11

も

森林のたより

News of the forest

フォレストワーカー研修

— 3年間で基礎技術を習得します —

表紙

「(公社)岐阜県森林公社 森のジョブステーションぎふ」

が実施するフォレストワーカー研修の実施状況

県では、「ぎふ木育30年ビジョン」に掲げた目標に向け、乳幼児から大人まで幅広い世代を対象に、森や木に親しむ体験・学習活動の充実に取り組んでいます。また、「ぎふ木育」の総合拠点として「ぎふ木遊館」及び「森林総合教育センター morinos」を令和2年度から運営しています。

目標

「ぎふ木育」を通じて、子どもをはじめとするすべての人々が、森林（自然）に誇りと愛着をもち、森林に対して責任ある行動をとることができる人材となる

「ぎふ木育」を県内全域に広く普及し、地域に根付いた活動にしていくため、令和5年度から実施している新たな取組みを紹介します。

① ぎふ木育指導者のネットワーク化

県内10地域の農林事務所で、ぎふ木育関係者を対象とした交流会を開催しました。木製品の工場見学、野外体験施設での体験等を組み込んだ企画を考え、計10回の交流会に延べ104名が参加し、お互いの活動の情報交換の場となりました。

また、各市町村の職員も交えて、ぎふ木育推進のための課題や解決策について意見交換を行う「ぎふ木育地域連絡会議」を10地域で開催しました。

今後も、地域のぎふ木育関係者同士がつながる場づくり、行政がぎふ木育関係者と連携するきっかけづくりに取り組んでいきます。



飛騨地域での交流会

② ぎふ木遊館・morinos・サテライト施設・ぎふ木育ひろば連携強化

これまではぎふ木遊館で開催してきた「ぎふ木育サポーター研修」を、ぎふ木遊館サテライト施設（中津川市、高山市）でも開催し、ぎふ木育の応援団を両地域で増やしています。

また、morinosの出張プログラム「はだしのトレイル」を、ぎふ木遊館やサテライト施設（中津川市）で実施しています（本号「morinos通信」参照）。

県内106箇所の「ぎふ木育ひろば」では、施設のニーズとぎふ木育の指導者をマッチングし、ぎふ木育の指導者が学んだ知識や経験を活かす機会を設けています。

今後もぎふ木育総合拠点と県内各地の施設が連携して取組みを進めます。



可茂地域の「ぎふ木育ひろば」でのぎふ木育指導員の活躍

③ 地域独自のぎふ木育プログラムの開発支援

「ぎふ木育」の実践者からの提案を受け、各地域独自の自然、伝統、森や木の文化とのつながりを活かした特色あるプログラムを試行・開発しています。

●飛騨地域の伝統工芸と森をつなぐプログラム

「森へのチケット～宮笠編～」

●東濃地域の炭焼き文化と地球温暖化の学習をつなぐプログラム

「タンタタタン（探多々炭）」

※上記プログラム開発事業の報告書は右記の二次元コードのリンク先ページで公開しています。



令和6年度も各務原市と美濃市の地域資源を題材にした2件のプログラムを試行しているところです。



伝統工芸（宮笠）と森をつなぐプログラム

次号からは、「①ぎふ木育指導者のネットワーク化」をピックアップし、「ぎふ木育地域連絡会議」の開催状況や、地域でぎふ木育を進めるキーパーソンをシリーズで紹介していきます。

運用から1年が経過しました



<G-クレジットの活用事例>

G-クレジットの活用事例の一部を紹介します。

(1) 清水建設株式会社 様（購入量：100t-CO2）

- 工場の建築工事において、重機から発生する温室効果ガス排出量の一部をオフセット。



(2) 株式会社十六フィナンシャルグループ 様（購入量：25t-CO2）

- FC岐阜ホームゲーム及び関連イベントにおいて発生する温室効果ガス排出量の一部をオフセット。



(3) 日本旅行株式会社 岐阜支店 様（購入量：5t-CO2）

- 県主催の親子環境学習ツアーにおいて、バスから排出される温室効果ガス排出量の全量をオフセット。



(4) 岐阜県森林組合連合会 様（購入量：2t-CO2）

- 通常総会において発生する温室効果ガス排出量の全量をオフセット。

<G-クレジットの森・応援パートナー制度>

G-クレジットの購入や普及啓発に取り組む企業等を、「G-クレジットの森・応援パートナー」として県が登録・公表する制度を運用しています。

10月17日時点で、582者（購入・普及啓発部門：124者、購入部門：72者、普及啓発部門：386者）がパートナーとして登録されています。

「G-クレジットの森・応援パートナー」は随時募集しています。パートナーとなって県内の森林づくりを応援しませんか。

【G-クレジット制度（G-クレジット制度運営事務局）】

TEL:058-201-5112

E-mail: gcredit-gifu@g-moriren.or.jp

Webサイト: <https://gcredit-gifu.jp>



事務局Webサイト

【G-クレジットの森・応援パートナー制度】

森林活用推進課 森林吸収源対策室 緑化推進係

TEL:058-272-1111 (内4349)

E-mail: c11513@pref.gifu.lg.jp



パートナー申請フォーム



G-クレジット制度



「G-クレジット制度」の

県では、健全で豊かな森林づくりと「脱炭素社会ぎふ」を実現するため、令和5年11月から「G-クレジット制度」を運用しています。

今回、運用から1年を経過した本制度の状況についてお知らせします。

<G-クレジットの認証状況>

6件のプロジェクト登録を行い、1,752t-CO₂のクレジットを認証しましたが、既に完売しています。今後も、クレジットの創出拡大に取り組んでまいります。

プロジェクト 実施者	認証量 (t-CO ₂)	収益の主な活用方法
中津川市	856	・市有林の管理 ・架線集材技術の研究、担い手育成 等
東白川村 森林組合	206	・森林所有者へ還元 ・国際的な森林管理認証制度を取得した認証林の普及 等
もとす郡 森林組合	265	・ICT機器を活用した施業の研究等スマート林業の推進 ・ドローンによる巡視など効率的な森林整備の推進 等
(有) フォレスト 板取	87	・森林所有者へ還元 ・境界の確認、作業道等の補修及び森林技術者の育成
中濃森林組合	153	・森林所有者へ還元 ・市有林の維持管理
揖斐郡森林組合	185	・森林所有者へ還元 ・担い手育成や作業道の補修 等
合計	1,752	

<G-クレジットの活用方法>

クレジットの活用方法は、以下の5項目となります。今後も、クレジットの活用方法を拡充し、その魅力向上に努めてまいります。

(1) 地域貢献

- ・事業所や工場等の所在地域や、その上流域にある県内の森林づくりを応援

(2) カーボン・オフセット

- ・事業活動や会議・イベント開催で排出される温室効果ガスをオフセット
- ・製造などの過程で排出される温室効果ガスをオフセットした製品やサービスの提供

(3) 岐阜県地球温暖化防止及び気候変動適応基本条例の報告

- ・温室効果ガス排出削減計画実績報告書における補完的手段による削減量として報告

(4) 県発注工事の工事成績評価において評価

- ・G-クレジット等を5t-CO₂以上購入し、地域の森林づくりに貢献した場合、「社会性等（地域への貢献等）」で評価

(5) 岐阜県建設工事入札参加資格審査に係る主観的事項審査において評価（令和7年1月1日施行）

- ・「G-クレジットの森・応援パートナー」に登録し、G-クレジットを5t-CO₂以上購入した場合、主観点数を10点加算。

森のジョブステーションぎふ アンバサダー（広報大使）を任命！

全国の学生、社会人、特に若い層に向けて岐阜県の林業の魅力を強力に情報発信し、新規就業者の確保に繋げることを目的に、岐阜県出身のアウトドア・防災タレント「さばいどる かほなん」を「ぎふ森ジョブアンバサダー（広報大使）」として任命しました。

任命式は令和6年8月8日に森林文化アカデミー内の林業機械学習棟で開催し、岐阜県森林公社の平井理事長から任命状及び任命証の楯をかほなんさんに授与しました。

「林業の仕事内容を発信して林業とは何かを知ってもらいたい、若い人や女性にも林業の魅力を理解してもらえよう」という動画を作成したい。」と抱負を語りました。

かほなんさんはサバイバル活動をするアイドル「さばいどる かほなん」として活躍。フォロワー数約45万人超、投稿した動画の総再生回数は1億1千万回をこえています。

今後は、PR動画1本を作成し公式YouTubeに公開。その他5本作成し森ジョブHP、YouTube、Instagram、Xで発信する。その他、イベントへの参加、ポスター等も作成し周知していきます。



●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-334011
「森のジョブステーションぎふ」まで

令和6年度林政部優良工事施工者表彰式を開催 ～ 林政部長表彰 ～

県では、発注した公共工事において、他の施工者の模範となる優良な工事請負者を表彰することで、施工者の意欲増進、建設産業の社会的評価の向上を図るため、各工事所管部局で、毎年優良工事施工者表彰を実施しています。

林政部では、令和5年度に完成した林政部発注工事185件の中から、令和6年度林政部長表彰3件及び農林事務所長表彰10件を選定しました。このうち、林政部長表彰については、令和6年9月4日（水）に岐阜県庁舎20階清流ロビーにおいて、表彰式を開催しました。

受賞されました皆様方には、地域の守り手として、益々ご活躍されますことを期待しています。

○令和6年度林政部長表彰の受賞者



※左から 天龍建設(株)、(株)立保、久松林政部長、馬瀬建設(株)

受賞者	林政部長表彰対象工事
天龍建設(株)	<山腹工事(岐阜市)> 公共災害関連緊急治山事業鶯谷
(株)立保	<林道開設工事(加茂郡東白川村)> 公共林道開設工事(尾城山2-1工区)
馬瀬建設(株)	<山腹工事(下呂市)> 公共予防治山事業大ザコ外2地区工事

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線(4314)林政課政策企画係まで

保安林制度の概要

■ 保安林とは

森林には、水を蓄え洪水を防止する機能、土砂の流出や崩壊を防止する機能、森林浴や森林レクリエーションにより心身をリラックスさせる効果など、様々な働きがあります。このような森林の持つ機能を特に発揮させる必要がある森林を森林法に基づき保安林に指定しています。

■ 保安林の種類

保安林は、指定の目的によって17種類に区分されています。
そのうち、岐阜県内にある保安林は次の9種類です。

- 水源かん養保安林
- 土砂流出防備保安林
- 土砂崩壊防備保安林
- 干害防備保安林
- なだれ防止保安林
- 落石防止保安林
- 保健保安林
- 風致保安林
- 魚つき保安林



■ 保安林の行為制限

保安林では、森林の働きを維持するために次のような行為が制限されており、違反すると法律により罰せられる場合があります。

- 立木竹の伐採、立木の損傷、家畜の放牧、下草・落葉・落枝の採取、土石・樹根の採掘、開墾その他の土地の形質の変更
※詳しくは最寄りの県農林事務所又は県庁森林保全課森林管理係へお問い合わせください。

岐阜県には約42万haの保安林がありますが、この保安林を守っていくことが私たちの生活を守ることに繋がります。保安林の適正な管理にご協力ください。

● 詳しい内容を知りたい方は **TEL 058-272-1111** 内線(4412または4413) 森林保全課森林管理係まで

盛土規制法の概要

1) 宅地造成及び特定盛土等規制法(通称:盛土規制法)(施行:令和5年5月26日)

令和3年7月に発生した静岡県熱海市における土石流災害等を踏まえ、「宅地造成等規制法」を抜本的に改正し、土地の用途(宅地、農地、森林)にかかわらず、危険な盛土等について全国一律の基準で包括的な規制が行われます。

2) 規制区域の概要

【宅地造成等工事規制区域】(許可制)

市街地や集落、その周辺など、盛土等が行われれば人家等に危害を及ぼしうるエリア

【特定盛土等規制区域】(届出・許可制)

市街地や集落などから離れているものの、地形等の条件から、盛土等が行われれば人家等に危害を及ぼしうるエリア

3) 規制内容

- 土地の形質の変更(盛土・切土)や一時的な土砂の仮置きを規制
- 安全対策に関する技術的基準への適合
- 許可にあたり土地所有者等の同意や周辺住民への事前周知

■ 規制区域のイメージ図



※国パンフレットより県の規制区域案と整合するように規制区域の範囲を変更しております。

4) 県の規制区域案と運用開始予定

各地域の地形などに関する基礎調査を行ったうえで、本県では隙間のない規制を目指していることから、県内全域を規制区域の対象といたします。運用開始時期は、令和7年4月を予定しております。

お問い合わせ先: 岐阜県都市建設部建築指導課盛土規制係 **TEL 058-272-8631 (直通)**

山の歳時記 231 YAMA NO SAIJIKI 木馬(きんま) I

文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

もう30年近く前、山菜採りの師匠でもある飛騨市河合町の中吉正治さんに、「木馬(きんま)再現できますか」とダメもとで聞いたことがあります。

木馬とは大型の木製轎に丸太を積み上げ、それを人力で麓まで運ぶ「道具と技術」を指し、轎には頑丈なカシノキ類が用いられました。木馬はすべてカシ材でつくられたものを「総台(そうだい)」と呼び、轎(下駄)だけにカシ材を使つたものは「接ぎ馬(はぎうま)」と

呼び分けました。

総台は丈夫で木材を運び易い反面、カシ材が手に入り難い飛騨地方では値段が高く、重量も重いため斜面上部まで担ぎ上げるのが大変でした。2本の轎(下駄)部分には長さ約3mのウバメガシやアカガシ、イチイガシ、シラカシ等の堅い木材を使いますが、カシ類が手に入らない時にはシラカバを代用としたそうです。

元来、木馬は高知県の土佐地方や和歌山県の紀州の技とされ、そこから木曽路や飛騨路へ伝わったとされます。高知や和歌山では堅いウバメガシを「バベ」と呼んで重宝したそうですが、生長が遅く、直材も少ないため適材の入手が難しいのが難点だったそうです。

木馬は2本の轎材を「ハの字」に置き、それに横木を五本渡して、前部に台木を乗せ固定します。自重は軽いものでも40〜50kgに達します。

木馬に木材を乗せて運ぶ「木馬曳き」には軌道づくりが重要です。勘と経験を頼りに、幅員約2

メートルの緩勾配の道をつくります。次に電車の線路にある枕木のように、道に直行するように盤木(ばんぎ)と呼ばれる横木を約30〜50cm間隔に敷きます。

盤木には耐腐朽性の高いクリ材が良いとされましたが、一般的に軌道勾配が緩ければ広葉樹を、急勾配では軟らかいスギやサワラを敷いたそうです。

軌道のカーブ部などでは、木馬の轎が軌道からはみ出さないような縦長のレールのような長い棒(カデと言う)を釘で打ちつけ、木馬がずれて落ちないようにします。

最後に、急傾斜な縦道部分に摩擦用のワイヤーを何本も設置して、軌道全体が完成します。

木馬に積む丸太は重量配分が重要で、前三分、後七分を基本とし、丸太の積み込み時に梶棒と呼



飛騨市河合町で再現して頂いた木馬曳き

ばれるハンドル代わりの細い丸太を配置し、手元にカスガイを打ち込んでそれを握って、丸太に固定した袈裟を肩に掛けて木馬全体を曳きました。

勾配が緩い軌道では盤木に菜種油や機械油の廃油を塗って滑らせ、急勾配では梶棒ワイヤーを巻きつけて摩擦しながら操作したそうです。

命がけの仕事だったので、熟練者になると7〜15石(こく)、材積2〜4m³もの木材を運んだそうです。



清水 寛之さん

清水しいたけ園の清水さん

清水しいたけ園

園主 清水 寛之さん

白川町では、昔から原木による椎茸栽培が盛んです。今回は、白川町にある佐見地域で原木椎茸を栽培している清水しいたけ園2代目園主の清水さんをご紹介します。

清水さんは27,000本のシイタケ原木を使って、年間7tの原木椎茸を生産しています。

令和3年度に、ぎふ清流GAP評価を受け、今年の9月に、評価の更新審査を受けました。

さらに、原木となるコナラやクヌギを植栽するなど、椎茸原木の生産にも取り組んでいます。



なぜコナラやクヌギを植栽しているのですか？

白川町の原木椎茸栽培を継承していきたいのですが、椎茸原木の調達に、年々難しくなっているからです。一番の要因は、平成23年3月の東日本大震災で、従来の調達先であった福島県から原木が入手できなくなり、それに伴い価格も高騰し続けています。

一方、原木椎茸の生産者と同様に、原木調達業者、伐り手も高齢化が進み、伐

り手不足が進んでいることも、ますます調達を難しくしている要因となっています。そもそも、県内の広葉樹は山奥に残されているくらいで、伐採、搬出にもコストがかり、採算が採れない状況です。

どれくらい植えましたか？

8年前に2,000㎡ほどの茶畑を農地転用し、コナラとクヌギを計400本植えました。現在、直径10センチほどまで成長しています。また、昨年12月には、所有山林0.1haに270本のクヌギを植えています。

コナラやクヌギは20年すれば適期となります。一度伐採した後は萌芽し、2回目以降は収穫できる本数も増えるはずです。少なくとも現在使用している原木数の半分は自分で調達出来るようにしたいと考えています。



山林に植栽したクヌギ

白川町の原木椎茸栽培の現状は？

白川町は、Iターンの若い新規就農者が多くいます。農業と兼務で、原木椎茸の栽培を始める方も多くいます。Iターンの若い人たちと盛り上げて、細くても長く続け、白川町の原木椎茸栽培を継承していきたいです。そのために原木調達の課題を今、何とかする必要があります。

トリュフ栽培に興味あり？

現在はタモギタケを試験的に栽培していますが、トリュフ栽培にも興味があります。コナラ林を育てつつ、その根元にトリュフもできたら面白いのではないかと考えています。トリュフは、結果が出るまでに年数がかかるので、原木生産と同時進行で取り組みたいです。

他に何かお話ありませんか？

山登りが好きで、地元仲間と近所の山に登山ルートを作ろうとしています。1時間半くらいのルートです。できあがったら、是非佐見に歩きに来てください(笑)

最後にひとこと

県内で椎茸原木に適したもので、ご提供頂ける方があれば、個人の方でもぜひお声かけ頂ければと思います。

● 詳しい内容を知りたい方は

TEL0574-2513111内線(422)

可茂農林事務所林業課まで



ぎふ木遊館通信



ぎふ木遊館では、「つながり」をキーワードに、民間企業、福祉施設、教育機関等さまざまな団体と連携し、ぎふ木育を広める取り組みを行っています。今回は、9月に実施した連携イベントを2つ紹介します。



岐阜農林高校森林科学科連携

＜木育プログラム「森のキング&プリンセスになろう!」＞

今年度、岐阜農林高校森林科学科の3年生8人が「ぎふ木育」をテーマに課題研究に取り組んでおり、当館において研修等を受講したうえで、オリジナルの木育プログラムを企画実行しています。9月15日(日)は、高校生が考案した木育プログラム「森のキング&プリンセスになろう!」を実施しました。

紙製の王冠の土台に、葉っぱや木の実、高校生手作りのちょうちの折り紙等を貼ってオリジナルの王冠を作り、さらに葉っぱのついた木や木馬等で装飾されたフォトスポットで、王様&お姫様気分で記念撮影ができるというプログラムでした。参加者からは「子どもに初めて葉っぱを触らせてあげられた」「高校生の対応が親切で感動した」等の感想をいただきました。

11月16日(土)のぎふ木遊館オータムフェスタでは、ブラッシュアップしたプログラムを実施する予定です。高校生の今後の活躍に期待しています。



子どもに寄り添って制作を手伝う高校生



フォトスポット撮影の様子



岐阜県障がい者芸術文化支援センター【TASCぎふ】連携

＜オブジェ「三叉」をみんなで飾ろう＞

ぎふ木遊館では、近隣施設のTASCぎふとの連携として、TASCぎふで開催する「いろんなみんなの展覧会『大地(にわ)に、つどう。』」の「庭園企画 つどう いどころ」で展示するオブジェ「三叉」のうち2機を来館者のみなさんと飾りつけるワークショップを9月23日(月・休)に実施しました。

45人の方が参加し、枝や松ぼっくりに毛糸を巻きつけた飾りを作り、三叉を装飾してくれました。「いろんなみんな」が支え合うことをイメージした三叉にふさわしく、様々な飾りで彩られたぎふ木遊館らしいオブジェが完成しました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。



飾りづくりを楽しむ親子



ぎふ木遊館で装飾した「三叉」

☆ぎふ木遊館公式ホームページ☆

ぎふ木遊館がどんな施設なのか等の施設案内、木育プログラムやイベント情報等を掲載しております！
また、ホームページの「事前予約のお申込み」から各種予約ができますので、ぜひご利用ください。



ぎふ木遊館公式Instagramのご紹介

ぎふ木遊館で行われる木育プログラムやイベント情報、館内の様子や木のおもちゃの話等を公式Instagramにて発信しております！

まだ来館したことない方も当館の様子がわかりますので、ぜひフォローをお願いします。



GIFUMOKUYUKAN0717





やがてみんなの森になる

morinos

出前体験!!

岐阜県立森林文化アカデミー・森林総合教育センター（愛称morinos）で実施している出前体験についてご紹介します！

＜「はだしのトレイル」を出前！～なかつがわ 森の木遊館～＞ 木遊館からmorinosへ、そして森へ・・・

morinosでは、森に親しむ入口となる様々なプログラムを開催しています。今回は、8月27日（火）に「なかつがわ 森の木遊館」へ森の出番（morino de van）と名付けた車に資材を積んで出かけて実施した様子をご紹介します。

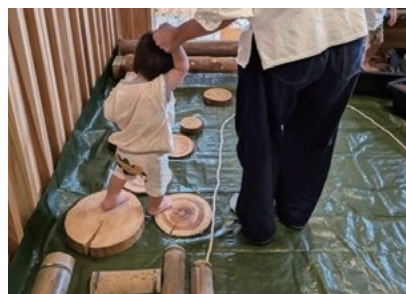
「なかつがわ 森の木遊館」は今年の8月に新しくオープンしたぎふ木育施設です。今回は、morinos名物の1つ「はだしのトレイル」を出前しました。参加者は「はだし」になり、ヒノキの輪切りや実、ニホンジカの毛皮など自然にあるものを敷いた「トレイル」を歩くという、普段できない体験に胸を躍らせていました。



「なかつがわ 森の木遊館」で遊ぶ子どもたち



兄弟そろって「はだしのトレイル」に挑戦



ヒノキの輪切りの上を歩く子ども

子どもたちに「どれが一番気持ち良かった？」と尋ねると、ニホンジカの毛皮やヒノキの樹皮、と答えてくれました。ヒノキの輪切りはザラザラ、丸太はゴツゴツ、樹皮はシットリ、実はイタイタとはだして踏んだ感想を話してくれました。また、保護者の方から「次はmorinosに出かけて本物の森を見せてあげたい」という嬉しい声もいただきました。

私たちmorinosは、木遊館で木に触れた子どもたちに、「はだしのトレイル」を体験して自然素材の感覚を肌で感じることで自然に興味をもってほしいという思いがあります。今後もこうした出前体験を通して、より多くの方々に、木や森を楽しみ自然に関心を向ける「森に親しむ入り口」の場を提供していきたいと思います。

●なかつがわ 森の木遊館

今年の8月4日に中津川市付知町にある「道の駅花街街道付知」内に新しくオープンした、「ぎふ木遊館」のサテライト施設。



●はだしのトレイル

石や竹、木など様々な自然の素材をはだして感じながら歩くことができる道（トレイル）のこと。モデルとなったドイツでは2～3kmにも及ぶ長い道となっており、休日には現地の人々が訪れ、森の体験を楽しむ。



なかつがわ 森の木遊館 HP

https://www.city.nakatsugawa.lg.jp/soshikikarasagasu/ringyoshinkoka/ringyo_shinrin/3/29369.html



なかつがわ 森の木遊館 HP

morinos HPでは、こうしたプログラムから日常風景まで、様々な活動報告を行っています。興味を持ってくださった方は、morinosのHP、YouTube動画をご覧ください。

ホームページ <https://morinos.net>

YouTube 検索「morinosチャンネル」

開館時間 10:00～16:00

定休日 毎週火・水曜日



morinosHP



YouTube
「morinosチャンネル」

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取り組みを行っています。こうした取り組みの内容について連載で紹介します。



岐阜県木質バイオマス利用施設導入促進事業

事業目的

森林資源を有効活用し、脱炭素社会を実現するため、公共施設等における木質バイオマスエネルギーの利用を促進します。

事業内容

岐阜県内の森林から生産された木材を原料に加工・製造された薪・木質チップ・ペレット等を燃料として利用するボイラー・ストーブ等の導入を支援します。

○**補助対象者**：市町村、学校法人、社会福祉法人、医療法人、NPO法人、民間事業者（多くの県民の利用が十分見込まれる商業・観光・レジャー事業等を営む者に限定）

なお、補助事業者のうち民間事業者は、次の要件を全て満たす者。

- 1 木質資源利用ボイラー・ストーブ等の年間稼働予定日数
 - （1）通年稼働する場合は200日以上
 - （2）冬期等時期を限定して稼働する場合は100日以上
- 2 年間来訪・利用者数

延べ3,000人以上

○**対象施設**：薪・木質チップ・ペレット等を燃料として利用するボイラー・ストーブ等を設置する施設。

○**対象経費**：木質バイオマス利用設備本体とその附帯設備の整備に係る経費。

○**補助率**：木質資源利用施設整備に係る経費の1/2以内の額。
但し、木質ペレット・薪ストーブ等は1台あたり最大50万円、木質資源利用ボイラーは1施設あたり400万円が補助金の上限。

<令和5年度の実施状況>

計8施設に合計19台のストーブが導入されました（ボイラーは実績なし）。

事業主体からの事業に対する評価は、「とても良い」「良い」が100%でした。事業主体からの声として、地域内で燃料調達ができる点や、自然エネルギーを利用できる点を評価する意見が見られ、事業の継続やさらなる事業PRの必要性を求める意見が複数ありました。



社会福祉法人関連施設に導入された
ペレット・薪兼用ストーブ

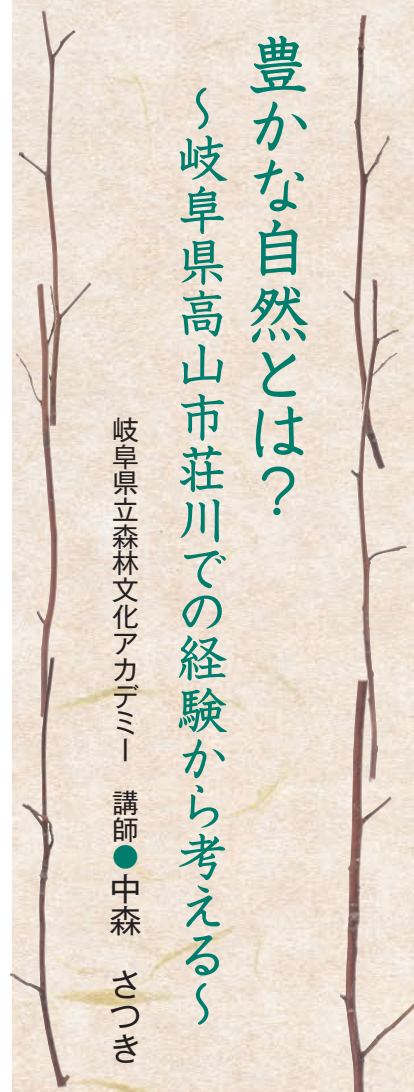


小学校に導入されたペレットストーブ

豊かな自然とは？

岐阜県高山市荘川での経験から考える

岐阜県立森林文化アカデミー 講師 ● 中森 さつき



『豊かな自然』とは、どのような自然を指すのでしょうか？ 私たちが『豊か』と感じる自然環境には、実は様々な視点や基準があります。たとえば、緑が広がる風景、清らかな水、そして多様な動物物が共存している場所は、一般的に豊かな自然の象徴とされています。

今回、岐阜県高山市荘川地域で行われている調査に5年振りに参加してきました。その結果を振り返りつつ、豊かな自然について考えてみたいと思います。

本研究の調査地となった、高山市に位置する山中峠湿原には、県の天然記念物



2006年5月



2009年9月

図1 山中峠のミズバショウ群落
(高山市荘川支所撮影)

本研究の調査地となった、高山市に位置する山中峠湿原には、県の天然記念物として指定されている立派なミズバショウ群落があります(図1上)。しかし、2006年以降、ニホンジカやイノシシによる採食や掘り返しといった被害を受けて、このミズバショウ群落は衰退してしまいました(図1下)。被害対策として、2011年度より電気柵による防除が開始されました。

防除開始後の湿原植生の変化を確認するために、湿原内に1m×1mのコードラットが200地点以上設置され、コードラット内のミズバショウの被度が2013年から毎年調査されています。ここで、GIS (Geographic Information System、地理情報システム)を用いて空間的な広がりを持つこのようなデータを解析することで、湿原内のミズバショウ群落の広がりを可視化することが可能となります(図2)。

今回取得したデータは200地点以上のコードラット毎のデータですが、その現地調査の結果とGISといったデジタル技術を組み合わせることで、図2のよう

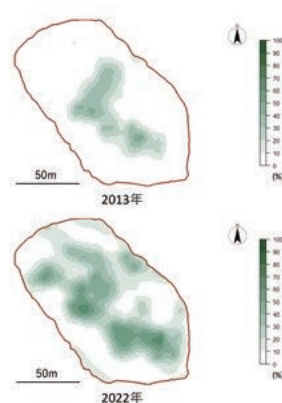


図2 ミズバショウ群落の被度(電気柵は湿原(赤枠)を囲むように設置)

うに湿原全体のミズバショウの被度を推定・可視化することができ、自然の豊かさをモニタリングすることにつながります。それにより、自然環境の変化や豊かさをより深く理解し、次のステップへと進むことができるのです。

また、今回テーマにした『豊かな自然』とは、いわゆる『ありのままの自然』とは限りません。むしろ、人間が手を加えることで、自然が豊かになることもあります。もし、電気柵を設置することなく、このまま野生動物に採食され続けていたら、ミズバショウ群落は消失して、全く別の姿になっていたかもしれません。この活動は、野生動物であるニホンジカが自然植生(ミズバショウ群落)を採食する、という現象に対し、人間が電気柵を用いて介入した、とも言えます。今回自然環境であるミズバショウ群落は私たちの介入に応じて変化しましたが、その変化も『豊かさ』の増加として捉えることができました。今回5年ぶりの訪問で、高山市荘川の自然が変化していることを実感しました。今後もさらなる豊かさをみせてくれることを期待せずにはられません。

最後になりましたが、今回このような調査に参加させていただき、岐阜県立森林文化アカデミーに感謝申し上げます。本研究は、「白山ユネスコエコパーク学術研究等奨励助成金」の助成を用いて実施されています。



“ぎふの木”使います!

— 岐阜県木の国・山の国県産材利用促進協定締結者のご紹介 —



県では、「岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例」に基づき、事業者と協定を締結し、県産材の利用を促進する構想の実現に向けて連携して取り組むことで、脱炭素社会の実現や循環型社会の形成、地域経済の活性化を目指しています。

令和6年2月28日に第2回目となる協定締結式を執り行い、11事業者（10協定）と協定を締結しました。その各協定締結者の取組みを紹介します。

ぎふの木ネット協議会（岐南町）

<今までの取組み内容>

ぎふの木ネット協議会は、岐阜県産材の利用を推進して岐阜の森を守るために結成した、産学官連携のチームです。

当協議会には、地元の工務店をはじめ、林業、製材、プレカット、木材流通、不動産、金融・保険、建材など全国の幅広い業種から、約230社/団体が参加しています。

運営は岐阜県で創業100年超の材木事業者が行っており、デジタル展示場「モクタウン」の展開や木材に関する情報発信、会員向けや一般の方向けのイベントの企画・開催などに取り組んでいます。



<今後の取組み内容>

会員向けに年6回発行している「ぎふの木ネット通信」や毎月配信しているメールマガジンにて、岐阜県産材の利用促進に関する記事を掲載していきます。

また、デジタル展示場「モクタウン」の活動や広報をより強化し、岐阜県産材を積極的に活用している地元工務店の知名度向上を図っていきます。

さらに、年1回岐阜県産材の利用促進に特に貢献した会員を紹介していきます。



<団体概要>

- 事務局 ヤマガタヤ産業(株)内
(岐阜県羽島郡岐南町)
- 主な活動内容 情報発信
- ホームページ <https://gifunoki.net/>
- その他 協議会会員募集中です。

デジタル展示場「モクタウン」へは
こちら→ <https://mokutown.jp/gifu/>



各協定締結者には、県産材の活用について積極的な普及啓発に努めていただきます。



下呂市複合型子ども・
子育て支援拠点施設「ニコリエ」

下呂市萩原町萩原599番地



施設全景

● 施設の概要

事業年度	令和5年度(繰越)
事業主体	下呂市
構造 延床面積	木造2階建て 日本瓦葺(一部金属葺) 654.11㎡
施設用途	子育て支援施設(児童福祉施設)
木材使用量 使用樹種	県産材使用量 176㎡(下呂市産材82%) 主な使用樹種 ヒノキ、スギ
全体事業費	331,151千円
助成額	11,118千円 (木の香る快適な公共施設等整備事業)
設計者	伊藤設計事務所
施工業者	日産工業(株)(建築本体工事)
工期	令和5年6月から令和6年4月



1F 読み聞かせコーナー

2F 児童館・教育支援センター

施設の経緯

令和6年6月、新たな子育て支援施設が下呂市萩原町にオープンしました。0歳から18歳までのこどもを対象に、遊びや交流、自主学习などができる「萩原児童館」、未就園のこどもとその保護者を対象に、遊びや子育て相談などを行う「萩原南子育て支援センター」、学校への行きづらさを抱えた児童生徒の支援を行う「教育支援センター」などの機能を併せ持つ複合型施設です。

1F 子育て支援センター・児童館



ここに注目!!

施設の名前は「ニコリエ」。立ち寄ったみんながニコリとできる家のようなあったかい場所になるように「ニコリ+家の意」の思いが込められています。

木製のジャングルジムやつみきなどのおもちゃがたくさんあり、木と触れ合い、木の温もりを感じながら遊ぶことで、自然と木育につながる体験ができます。

利用者の様子

未就園のこどもから高校生まで幅広い年齢層が集まりにぎわっています。誰もが気軽に利用でき、楽しみがある場所、出会いのある場所にするため、地域の皆さんからアイデアをいただきながら一緒に作り上げるニコリエをしていきます。

■問い合わせ先

下呂市役所 福祉部 こども家庭課

TEL 0576-52-2882

御嶽山飛騨頂上に 火山防災シエルター設置

平成26年9月27日の御嶽山噴火から10年が経ちました。この噴火では11時52分に、山頂南西の地獄谷付近で発生した水蒸気爆発により、大きな噴石が1km程度の範囲に飛散し、死者58名、行方不明者5名、負傷者61名という戦後最悪の火山災害となりました。

この災害を受け、下呂市では、平成28年度に五の池小屋の本館、平成31年度に二の池ヒュッテのそれぞれ屋根の一部をアラミド繊維による補強を行い衝撃耐力を向上させ、各山小屋の一部を待避場所とするための工事を実施しました。

御嶽山の噴火警戒レベルが、発災直後はレベル3の立入規制とな



登山者で賑わう5月末の三ノ池

り、平成27年にレベル2へ、平成29年にレベル1（ただし1kmの立ち入り規制を継続）に引き下げ、現在では火山活動の状況に応じて警戒レベル1〜2で変動していますが、立入規制範囲は500mに緩和されました。

この規制範囲に含まれる山頂の剣ヶ峰への立入も長野県側におけるシエルター設置などの安全対策により、期間限定で可能となっています。

また、令和5年5月8日から新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に移行されたことや、令和3年頃からSNSで広まった、三ノ池のドラゴンアイ（秋田県と岩手県にまたがる八幡平（はちまんだい）の頂上付近にある鏡沼が元祖）を目的に登山者が増加しています。また、登山装備の発達や、登山ブームを経て、より技術のいる雪山へ挑戦する登山者の増加により、以前は限られた人しか訪れなかった積雪期の御嶽山飛騨頂上への登山者が増えてきています。このため、下呂市では、令和6年度に、五の池小屋が閉鎖となつていく冬季に素早く避難できる火山防災シエルターを飛騨頂上付近に新たに設置したほか五の池小屋の避難壕としての機能強化のため、本館屋根アラミド繊維補強の未施工部分に対して、アラミド繊維による補強工事を実施しました。



新たに設置されたシエルター

御嶽山は特異な自然景観や高山植物、雷鳥などの希少な動植物が生息しており、多くの登山者が訪れています。訪れた方々が御嶽山を契機に森林や林業に興味を持ってもらえればと思います。そのためにも安全対策は重要で、岐阜署としても火山防災シエルターの設置等について、協力して参りたいと考えています。

（岐阜森林管理署）

国産黒トリュフ（アジアクロセイヨウシウロ）を

人工的に発生させるために

森林研究所 ● 水谷 和人

はじめに

国内で流通するトリュフは、すべてヨーロッパや中国などから輸入されています。我が国にもヨーロッパのものとは別種のトリュフが自生しており、それらを用いた国産トリュフの栽培技術の確立が望まれています。

令和5年10月、国内で初めて人工的に国産黒トリュフを発生させることに成功しました。この成果は多くのマスコミに取り上げて頂きましたが、ここであらためて詳細を紹介します。

コナラの植栽

平成28年4月、苗畑において、赤玉土と鹿沼土を混合した土壌を約15cmの厚さに敷き詰め、対照区（石灰無施与区）と石灰施与区を設定しました。同年4月と7月に、苗高約80cmのコナラの根を、国内で採取した黒トリュフをミキサーで粉砕した懸濁液に浸漬して、各試験区に14本ずつ植栽しました。試験区は石灰施与の有無と植栽時期別に4種類で、無施与・4月植栽区、無施与・7月植栽区、石灰施与・4月植栽区、石灰施与・7月植栽区です。

菌根形成には石灰が必要

植栽後4年目と8年目に、試験区ごとに穴を掘り、根ごと土壌を採取して、トリュフの菌根の有無を確認しました。菌根菌は樹木の根にくっついて菌根を形成し、土壌中に菌糸を広げて育つキノコであることから、菌根の状況で土中のトリュフの菌の増殖具合が評価できます。

石灰施与・4月植栽区および7月植栽区には、黒トリュフ特有の菌根が確認でき、石灰を施与した試験区でトリュフが順調に増殖していることがわ



図1 菌根の形成状況(8年目)
根棒状の根がトリュフの菌根(矢印)

表1 菌根の形成状況

試験区	4年目	8年目
石灰・4月植栽	○	◎
石灰・7月植栽	○	◎
無施与・4月植栽	×	未調査
無施与・7月植栽	×	未調査

・菌根形成：×なし、○あり、◎多数
・H28年4月及び7月に苗木を各14本植栽(1試験区2.16㎡)

8年目にトリュフが発生

かりました(図1、表1)。一方、石灰を施与していない無施与区にはトリュフの菌根は確認できませんでした。

コナラを植栽して7年が経過した令和5年には、植栽したコナラは、大きなもので樹高6mを超えました(図2)。その年の10月、石灰施与区の地表面に黒トリュフが2個(重量は23gと38g)が発生しました(図3)。発生したキノコと植栽したコナラ苗木に接種した菌を、森林総合研究所の協力で遺伝情報(DNAマーカー)に基づいて照合したところ、発生したキノコはアジアクロセイヨウシウロで、接種した菌と遺伝的に同一であることが明らかになりました。これにより、国内で初めて人工的に国産黒トリュフが発生したことが科学的にも確認できました。

今後の取り組み

今回、黒トリュフが発生するまでに、コナラを植栽してから7年半を要しました。今後も発生 の推移を継続調査するとともに、栽培の実用化に向けて、黒トリュフ発生 の再現性の確認や、短期間で安定的に発生させる技術開発を進めます。



図2 植栽8年目のコナラ

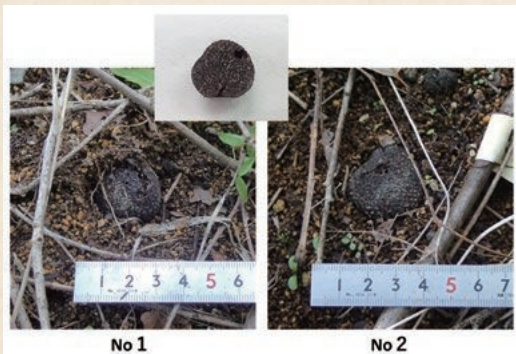


図3 発生したトリュフ

● 詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-1331-2585

森林研究所まで



中濃地域の再造林、その後について



■中濃農林事務所 林業課 澤頭 祐一

●はじめに

ニホンジカ(以降、シカ)の被害については、全国でも枝葉の食害やはく皮など林業被害全体の三割を占め大きな問題となっています。

岐阜県内でも被害は甚大で、テープや防護柵など様々な資材を使った方法で被害対策を実施しています。また、直近三か年では年間約二万頭の捕獲が行われているところですが、森林の被害が減ってきたという声を聴くことはありません。

●現地の概要

今回、中濃森林組合からの相談を受け、森林研究所の協力を得て三者で再造林地の調査・意見交換を行いました。場所は関市板取地内。植栽面積は一・五七ha。令和二年秋にスギを植栽、獣害対策として単木保護資材(チューブタイプ)を施工しています。

施工した翌春には降雪による資材の倒伏等により食害が確認され、三年間で五割程度がシカの食害を受けました。残存している苗木の多くはすでに資材の高さを超えていました。その後、令和五年秋にフォレストワーカーの植栽研修の場として補植と単木保護資材(蛇腹式ネットタイプ)の設置が行われています。この施業区域内はシカの採食圧が非常に高く、植栽木の

ほかキリなど侵入してきた高木性樹種も確認できましたが、シカの嗜好性が低いクサギやシダ類が優占する状況となっていました。

●単木保護資材の構造

単木保護資材は支柱を設置し直立した状態にします。本体の支柱への固定はチューブタイプは結束バンド(リピータイプ)、蛇腹式ネットタイプはクリップを使用し固定しています。支柱は両資材ともイボ竹を使用しています。

●被害の形態

被害状況について、三者で考えられる理由を出し合いました。

チューブタイプ・結束バンド(リピータイプ)を使用した資材は、風に揺らされることにより、結束バンドに緩みが生じ資材が支柱から外れたり、浮いてしまうケースが見られ、資材が支柱に固定されず、鼻先や角



で持ち上げられ採食されたと推測しました。また資材が押し倒され、苗木が引きずり出され採食されているものも確認できました。蛇腹式ネットタイプ・チューブタイプ同様に資材を持ち上げられ、中の植栽木が食害されていました。この場合、固定クリップが地際より十五〜二十センチ上に付いており、シカによって持ち上げられた、あるいは施工時の不良と考えられました。

どちらのタイプも資材の持ち上げ等により、資材内の苗木が露出してしまい、シカが資材内の苗木を引っ張り出し採食するケースが多く見られました。また、積雪や風により資材が傾倒や倒伏したものも同様に採食されていました。

●今後の方針等

このような状況に陥った再造林地を今後どのように管理をしていくのかを検討しました。

まず目標林型をどのように設定をするかの意見を出し合い、

①引き続き補植を継続する。

②資材の補修や再設置を行い、現在残っている植栽木を確実に仕立てる。

③周囲に広葉樹の林が残っているため、種子散布を期待し針広混交林化を図る。

森林組合の意向は①でした。

補植を行う場合、シカが資材の中に苗木(エサ)があることを認識している可能性があり、同様の被害が発生する可能性がある。

②は残っている植栽木の資材を点検し、補修を行いこれ以上被害が拡大しないようにする。地際から資材を持ち上げられにくいように、チューブタイプは、結束バンドを使い切りタ



植栽時の状況(中濃森林組合提供)

イプのものに交換。蛇腹式ネットタイプは地際部分にクリップを取り付け直す。下刈りを行わずシカが採食しないクサギで植栽木を囲うように守る。

③の場所は幸いなことに周囲に広葉樹が残っているため飛来種子の侵入を期待できる。

このような意見が出されました。

●おわりに

シカの被害対策は、長きにわたり試行錯誤の連続で被害も減らない、生息数も減らないなど閉塞感が漂っていますが、再造林を進めるには避けては通れません。このため、捕獲圧をかけながら、例えば、シカの採食圧が高い地域での再造林は、被害を受けることを見込み、あえて三千本/ha以上の植栽を検討、費用対効果と検証をしながらそれぞれの欠点を補う単木保護資材の適正な設置と柵の併用、植栽後の初期成長を期待した春植えの推進、定期的な資材の維持管理と現場の見回りの強化等の検討は続けていく必要があると考えられます。また、資材メーカーも巻き込んだ意見交換や資材の研究も必要と考えます。今後も事業者の皆さんと意見を出し合い模索していきたいと思います。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL0575-3314011

中濃農林事務所林業課まで

森林技術開発・支援センター きのご通信

6

ひらたけのポテンシャル

みなさんは、どのような食用きのこをご存じですか？

私の住む岐阜市のスーパーマーケットでは、しいたけ・ぶなしめじ・まいたけ・なめこ・えりんぎ・えのきたけ・きくらげ・マッシュルームなどを定番商品として見かけます。

農産物直売所などでは、しいたけ・きくらげが最近の定番。そして寒い季節になると、ひらたけに出会うことがあります。大きな株のきのこで、販売棚で目を引きまします。

ひらたけは、程よい味の深さで香りも強すぎず、肉質がむっちりしっかりしており、煮物・炊き込みご飯・炒め物などでも使えておいしいきのこです(筆者の感想です)。

ひらたけの特徴に、とても育てやすいことがあります。菌類であるきのこの人工栽培では、その他の菌(雑菌)との競争に負けないよう注意しながら管理しますが、ひらたけは多少雑な栽培をしても、きのこを作ってくれるので、興味ある方には家庭栽培をおすすめします。

菌床栽培の場合は、菌が回ったブロックがネット通販やホームセンターで簡単に手に入ります。原木栽培の場合、たいていの広葉樹が使え、種菌もネット等で入手可能です。

私は昨年9月に、菌の回ったブロックを土に埋めたところ、10~12月の間、大きなひらたけを収穫することができました。路地物は市販の物より香りが強かったので驚きました。



ひらたけのポテンシャルを探求したくなり、この春、なんとなく思いついて牛乳パックに培地を詰め、殺菌・植菌してみました。加湿でパックがフヨフヨと浮き、雑菌に負けるかと思いましたが、やはりひらたけは強かった。



次はどんな試練を与えようか、ひらたけがどう超えてくるか、楽しみで仕方ありません。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL0575-33512535

森林文化アカデミー 技術普及係まで

開催日	行事名等	内 容 等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場 所 申込(問合せ)先/TEL
11月19日(火)~ 11月22日(金)	フォークリフト運転技能講習 受講資格 自動車普通運転免許所持者	●講習時間 1日目:学科 8:50~17:05 学科試験 17:10~18:10 2~4日目:実技・試験 8:00~17:30 ●申 込:開催日の20日前まで ●受講料:32,450円(本代含む)(振込み) ●定 員:20名(定員になり次第締め切ります。)	(学科) 伊自良中央公民館(山県市大門850-67) (実技) ぎふ農協 旧伊自良共選場(山県市洞田127-5) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
12月5日(木)	刈払機取扱作業 安全衛生教育	●講習時間:学科 9:00~15:20 実技 15:30~16:30 ●申 込:開催日の10日前まで ●受講料:11,550円(本代含む)(振込み) ●定 員:30名(定員になり次第締め切ります。)	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
12月11日(水)~ 12月13日(金)	伐木等の業務(チェーンソー) に係る特別教育	●講習時間:11日 学科 8:50~17:10 12日 学・実 8:50~12:00 13日 実技 8:30~17:40 ●申 込:開催日の10日前まで ●受講料:23,870円(本代含む)(振込み) ●定 員:30名(定員になり次第締め切ります。)	11日(学科) 12日(学・実) ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) 13日(実技) 榎木の国 土場(山県市椎倉203-1) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195



先日とある番組で、長良川のほとりで72時間の定点取材をした様子が放送されていました。金華山の麓辺りでしたが、色々な人が色々な理由で生活の延長線として長良川に立ち寄っていて、川が地元の人の生活のすぐ側にあることを感じました。自分を振り返ると、長良川の近くに住んでいますが、平日の行動圏では川を目にすることが無く休日にも上を通り過ぎるくらいです。近くに住んでいるのに意識しないとそこにあることを忘れてしまいそうなことに焦りを感じ、最近は時々長良川の河川敷に降りてみたりしています。ほとりに立つと遠目から見るのとはまた違う印象で、川の実在感を感じるし市街の見え方も変わり面白いです。

川に限らず、近くにありすぎて見落としているものに目を向けて生活したらまた新しい発見があり楽しそうです。身近な山々も然りかなと思います。

「森林のたより」編集委員 森林経営課 比留間 光子

イベント情報

12月1日発行

連載

●山の歳時記(232)

清流と森と親しむ

●森林と人を活かす知恵(143)

木と親しむ

●岐阜県の公共木造建築(140)

清流の国ぎふ森林・環境税

森林・林業技術

●研究・普及コーナー

市況情報

その他

12月号
予定

木材市場

木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所
単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	気配
第1864回 岐阜共販所 10月8日	すぎ	3 m	16～18cm	14,600	—	→
		4 m	16～18cm	14,000	—	→
			20～22cm	14,500	—	↘
			24～28cm	14,400	—	↘
			30cm以上	13,000	23,800	→
	ひのき	6 m	16～20cm	18,000	—	→
		3 m	16～18cm	20,900	—	↘
			20cm以上	18,400	22,000	↘
		4 m	16～22cm	20,300	—	↘
			24～28cm	18,700	—	↘
			30cm以上	18,400	40,300	↘
		6 m	16～18cm	—	—	→
第1459回 飛騨共販所 10月9日	すぎ	3 m	16～22cm	14,500	—	↘
		4 m	24～28cm	14,800	—	↘
			30cm以上	12,000	—	↘
	ひのき	3 m	16～18cm	21,000	—	↘
		4 m	20～22cm	20,300	—	↘
			24～28cm	19,100	—	↘
			30cm以上	19,000	55,000	→
		6 m	16～20cm	—	—	→
	ひめこ	4 m	24～30cm	11,000	—	↘
		5 m	30～38cm	11,000	—	↘
			40cm以上	—	—	↘
	くり	4 m	24cm以上	15,000	40,000	→
第1793回 東濃共販所 10月3日	すぎ	3 m	16～22cm	14,000	—	→
		4 m	24～28cm	14,000	—	↘
			30cm以上元	15,000	21,000	→
	ひのき	3 m	16～22cm	20,000	—	↘
			24～28cm	18,700	34,000	→
			30cm以上元	25,000	39,000	→
		4 m	13cm以下	12,000	—	↗
			24～28cm	18,800	43,000	↘
			30cm以上元	26,000	49,000	→
		6 m	18～22cm	29,500	—	→
	まつ	4 m	22～28cm梁	—	—	→
			30cm以上元	11,000	—	→

※単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格。気配は、前回市との比較。

【商況】

スギ4mの元木、尺上良材は、入札多数であるが価格は保合。スグラミナ向け3m・4m材は保合。ヒノキ良材4mは入札旺盛で活気あり、価格は保合。ヒノキ3m・4m構造材の価格は弱保合で推移。合板向けは、引き続き住宅着工などの伸び悩みにより製品の荷動きが鈍く弱基調。製紙向けパルプ材、発電向け未利用材ともに原木不足感が強く需要高。(岐阜)

ヒノキやスギ並材は横ばいで推移。広葉樹は出材も多く良材は応札盛況だが並材は価格が伸びない。高値はヒノキ4m×40cm@55,000円、クリ2.2m×48cm@41,000円、クリ4m×32cm@40,000円、クリ5.2m×34cm@40,000円、クリ6.2m×34cm@45,000円、ナラ2.1m×44cm@44,000円、ホウ2.1m×30cm@28,800円、キハダ2.0m×52cm@39,300円、マクルミ2.1m×44cm@43,300円、トチ2.0m×44cm@42,500円、サクラ3.8m×30cm@36,000円、ミズ×2.1m×30cm@28,800円。(飛騨)

出材は徐々に回復傾向。ヒノキ役物良材には応札多数で活気づくも、構造材向けは当用買い中心で価格に伸びは見られず。3m柱向け(14cm～26cm)は価格は弱含み。4m土台向け、中目材も価格は弱含みであるが、引き合いは強い。スギ中目、尺上、元木良材は、底堅く推移し価格保合で推移。目荒等並材は価格も伸び悩み売りづらは継続。4m(24cm以上)の構造材は弱含み、同3mも弱含み。スギ6m長柱向け(18cm～22cm)は各方面から要望があり、造材をご検討下さい。合板向けは弱基調。ラミナ向けはスギ、ヒノキともに活発な動きあり。(東濃)

製品卸売標準価格 (9月期)

単位:円

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本(枚)単価)	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	68,000	(2,249)	→
	間柱	3000	105	30	1等	70,000	(662)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	78,000	(3,440)	→
	柱	3000	120	120	特等	73,000	(3,154)	→
		6000	120	120	特等	150,000	(12,960)	→
	W集成材	3000	105	105	国産5層	91,000	(3,000)	→
		3000	120	120	国産5層	98,000	(4,200)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (9月期)

単位:100円(1㎡当たり)

樹種	規格	価格	前月比較
米松	SSタイプ	396	→
	コースト(目荒)	414	↓
米樺	ヘム(アラスカ産)	468	→
米ひば	ポール	—	—

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

これってなあに? ～木材用語～

フィンガー・ジョイント

finger Joint (FJ)。木材のたて継ぎ加工の一種。材料の木口端部をカッターで手の指(フィンガー)状に加工して接着剤を塗り、はめ合わせて圧締接着して長尺材を作る方法。材料の損失が比較的少なく、機械化に向いているため、自動化された高効率な機械が普及している。たて継ぎされた材は一般的にFJ材と呼ばれる。

(参考)日刊木材新聞社 木材・建材用語辞典

台風の「たい」は、なぜ「台」なのか？

3

真夏の朝6時半頃テレビを付けると「作業車両の脱線で新幹線は浜松駅——名古屋駅間で運転見合わせ」との速報。この日午後2時から東京で日本造林協会の総会が開催され、監事の私は午前中に出向き監査を行うこととなっていた。

報道の続きでは「午後には復旧する見込み」とあり、とにかく朝だけ無理して行けば何とかかなると思い、早速、嫁に岐阜駅まで送らせ、豊橋行の在来線に飛び乗った。一宮、名古屋と駅に着く度に大きなカバンを持った客が目立ち始めた。豊橋で乗り継ぎ、浜松に降りるとホームは人でごった返していたが、それでも何とか新幹線に乗り、約5時間後の12時過ぎに着き、監事の役は終えることができた。

午後になりスマホで状況を確認

すると「復旧に終日かかる」に変わっている。何か恐ろしいことになる予感がし、とりあえず総会後の行事には参加せず即東京駅に向かった。3時半過ぎの新幹線に間に合い、途中、何度も停車したが6時過ぎには浜松駅に到着し、帰宅の目途が付いたかにした。

が、実はこれからが長かった。「豊橋方面に乗り換えの方は一旦ホームを出て下さい。」の構内放送。マイクを持った駅員や大勢の警察官も盛んに誘導している。前の人にひたすら付いていくと、一旦南口から外に出され列は駅ビルの横を回って北口広場まで続いており、長さは優に1kmは超えていた。「そもそも16両の新幹線の乗車客が一度に4両の在来線に乗り切れる訳がない。朝から何やつとるんだ。」と短気なので怒り心頭に発していたが、これしか帰る術はなかった。やがて辺

りはすっかり暗くなったが汗が止まらない。牛歩の歩みにひたすら従っていれば「トイレに行きたい」「ビールが飲みたい」は誰しも湧いてくる欲求と思うが、ひと度外れれば並び直す羽目となる。肉体的にも精神的にも忍耐の時間が続いた。

ようやく「豊橋行」に乗れたのは9時少し前。急ブレーキで倒れないよう、立っているので精一杯の私に對し、同じ時間を過したのに大声でしゃべっている外国人旅行者の体力は追いつかなかった。その後豊橋で乗り換え、変わらぬ寿司詰め状態にひたすら耐え、最終的に家に帰ったのは12時少し前。実に8時間半の帰路となった。

さて前置きの方が多くなったこのケースは別として、新幹線や飛行機などのダイヤを乱し、利用者に迷惑をかける最たるものは「台風」。先の般の日本を横断した台風10号でもそうでした。時速300kmを超える新幹線にとって「強風」は天敵。風速30m/s以上で運転を見合わせるらしい。辞書では台風は「風速が17m/sを超えたもの」と書いてある。「風」が基準だ。それなら「台」で

なく「大」の方が合っている気がするが、もしかして「台湾」の方から来るからなのか。

早速インターネットで調べると、諸説ありますが多くは表のように解説されていました。

「台風」の名の由来

- 古くは「野分（のわき・のわけ）」と呼ぶ
- 江戸時代頃は中国から伝わった「颶風」を使用
- 明治時代には欧米文化が入ってきた影響で「typhoon」も使用
- 1908年中央気象台長の岡田武松がtyphoonを「たいふう」と意識し、気象用語に「颶風」を採用
- 1946年「当用漢字表」が公布され「颶」の字が公の文書で活用できなくなり、「台風」に変更

台風10号の最中、ラジオで「長野県には台風が来ない説」を耳にした。何と3kmを超える日本の屋根瓦（三大アルプス）が「ATフィールド」を発動し、台風の襲来を阻止するそうです。本当なら羨ましいですね。

山林協会 高井